令和 3 年 2 月 26 日
茨城県病害虫防除所

# 病害虫速報 No. 7

## ナシ黒星病の発生が多くなると予想されます。

## 催芽期～萌芽期（３月下旬）の防除を確実に行いましょう！

［現在の発生状況］

① 令和２年 10 月の調査において、ナシ黒星病秋型病斑の発病度は 4.8（平年値 0.8）と平年より高く、発生地点率は 83%（平年値 62%）と平年よりやや高かった（表）。

表　ナシ黒星病秋型病斑の発病度と発生地点率

| 地域 | 発病度 1) | | | 発生地点率(%) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (地点数) | R2 | 平年 2) | 順位 3) | R2 | 平年 2) | 順位 3) |
| 県北・県央(4) | 7.3 | 0.5 | 1 | 100 | 62 | 1 |
| 県南(5) | 5.2 | 1.2 | 1 | 60 | 60 | 6 |
| 県西(10) | 1.9 | 0.8 | 3 | 90 | 63 | 3 |
| 全県(19) | 4.8 | 0.8 | 1 | 83 | 62 | 2-3 |

1) 発病度：圃場当たり 300 葉について発病の程度をもとに算出した値。最小値は 0 で最大値は 100 となる。
2) 平年値：平成 22～令和元年の平均値
3) 順位：本年を含む過去 11 年間における本年値の順位（2-3 は 2 位から 3 位まで同じ数値であることを示す）

［防除上注意すべき事項］

① 昨年秋型病斑上に形成された分生子は、降雨により枝を流れ落ちて鱗片に感染し、本年の伝染源となる。そのため、露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例に記載された催芽～萌芽期（3 月下旬）の薬剤防除を確実に行う。

② 昨年秋型病斑を生じた落葉上に形成された子のう胞子は、本年 3～5 月にかけて降雨の度に飛散する。そのため、今からでも落葉を集めて土中深く埋めるなどして、伝染源を減らす。

注）農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用基準、注意事項を必ず確認のうえ使用する。